

地域完結型医療連携

地域が一つの病院のように

北見日赤とつながりを深めるクリニックを訪ねて

藤江内科クリニック

私たちの機関紙「オホーツクの風」平成23年1月21日(金)新年号(0004)に「地域医療を考える・日赤の病院改築を機会に」を掲載しました。

日赤の勤務医の先生と診療所のかかりつけ医の先生が顔の見える信頼関係を築くことが出来れば、私たちは安心してかかりつけ医に診てもらうことができる、いわゆる「地域完結型医療連携」の実現がその内容でした。素人の私たちには、あまりにも大きな課題のため、なかなか次のステップへ一歩踏み出す機会に恵まれない、時が大きく過ぎてしまいました。

最近、日赤と信頼関係を築いている藤江内科クリニックの院長先生と面談する機会に恵まれ、当会の谷川さん、古澤さんそして逢坂がクリニックを訪れました。

診療方針

①クリニックは身体・全身の病気を診る、言いかえると「医療のデパート」と考えています。私の専門は血液内科ですが、総合医を目指しています。

②私の勝手な解釈ですが、当院は日赤の外来部門の一部と

考えています。北見赤十字病院は高度医療拠点(2次・3次医療)であり、専門性を高めています。当院は広く浅く慎重に診療を展開。各々の役割を理解しながら毎日の診療に取り組んでいます。

③日赤の勤務医の先生との人間関係は

ceのコミュニケーションを心がけています。このことがお互いの信頼関係を深めていると考えています。

④前記の②・③をクリニック運営に生かし、日赤との医療連携を行っています。

北見赤十字病院の

内部体制

⑤病気への強い執着と大きな心で患者に寄り添う。専門が血液内科でしたので白血球・血液癌・骨髄移植などの重い病気の患者さんと病棟でかわつてきました。

治りづらく、療養期間が長く、死の瀬戸際の患者さんと接する時、医療技術や検査データはもちろん大事ですが、それよりも患者の身になって、その人のその時の話しを聴くことが大切であると学び、日常の診療に生かしています。

ICT(インフォメーション&コミュニケーション)テクノロジー(ノロジー)を活用して、院内情報の共有を行っている。

院長の診療デスク



院内の看護部門、検査部門、事務部門などに8台ほどのPCが稼働している。カルテは勿論、電子化され、院内の各セクションと情報が共有されている。

院内のイントラネットはシステムエンジニアに、たよらず、院長が独自に構築した。いまでもネットワークに不具合が発生すれば、自らそれを発見して修理してしまう。



あしがき

藤江院長先生は私たちをこころよく迎えてくれ、1時間半ほど懇談することが出来ました。

先生は日赤と顔の見える信頼関係を築き、患者本位の医療連携を日常的診療で実現していました。私たちが目指す、「地域完結型医療連携」の「地域が一つの病院のように」を体感することが出来ました。ご協力、有り難う御座いました。